

小児線維筋痛症患者に
対する診断基準の世界
における使用状況

戸田克広

小児線維筋痛症患者に対する診断基準の世界における使用状況

738-0060

広島県廿日市市陽光台5-12

廿日市記念病院リハビリテーション科

戸田克広

Use status of diagnostic criteria for fibromyalgia in children

Department of Rehabilitation, Hatsukaichi Memorial Hospital, Hatsukaichi, Japan

緒言

線維筋痛症（FM）のほぼ唯一の基準は1990年の分類基準（90年基準）[1]である。その基準は大人用の基準である。小児における診断基準には混乱があるため、世界における状況を調べた。

方法

2010年にカナダのモントリオールで開催された13th World Congress on PainにおいてFMの一般演題（ポスター演題）を出している39人に小児の線維筋痛症患者の診断基準に何を使用しているかを口頭で尋ねた。

結果

口頭で尋ねたため、回答率は100%であった。

11人（28.2%）は大人用の診断基準（90年基準）を使用しており、4人（10.3%）は小児用の診断基準を特別に作り使用していた。19人（48.7%）は小児を診察しておらず、5人（12.8%）では小児を診察しているかどうか不明であった。小児を診察している15人に限定すると11人（73.3%）は大人用の診断基準を使用しており、4人（26.7%）は小児用の診断基準を特別に作り使用していた。

小児を診察している15人に限定すると、発表施設の所在別ではアメリカ7人、カナダ2人、スペイン、ドイツ、デンマーク、フランス、オーストラリア、日本各1人であった。日本の1人は私自身である。職種別では医師8人（内科医、神経科医、リウマチ医各2人、リハビリ医1人、不明1人）、心理学者3人、理学療法士、PhDの学生、PhDでありnurse practitioner（アメリカ）、疫学者各1人であった。リハビリ医は私自身である。

考察

未就学児にもFM患者がいるため、未就学児でも使用可能な診断基準が必要である。しかし、90年基準は大人用の基準である。90年基準には科学的根拠があるが、対象は大人であり、小児患者はその基準では調べられていないと推測されている。

90年基準は身体5か所に痛みが3か月以上持続することと、18か所の圧痛点のうち11か所の圧痛点を約4kgで押さえて圧痛があることの二つで構成されている。小児、特に未就学児において約4kgで圧痛点を押さえることが妥当かどうかは全く検証されていない。体重が軽い小児において約4kgが適切であるのか、大人と比べると相対的に広い範囲を押さえることが適切であるのかの問題が生じる。90年基準をそのまま使用する施設と、小児用の診断基準を独自に作成して使用している施設がある。

90年基準を使用する長所は、①少なくとも大人では科学的根拠があること。②世界共通の診断基準であること。③小児患者と大人の患者の比較が容易である。④小児患者を経過観察する場合でも同一の診断基準を使用できるため、混乱が起こらない。⑤新たな基準を覚える必要がない。短所は、90年基準は小児において有効かどうかの科学的根拠がないことである。

小児用の診断基準がいくつか報告されている。90年基準のように世界標準になっていないためいずれを用いても、混乱が生じる。また、いずれの診断基準も科学的根拠に基づいて作成されていない。小児においては90年基準を一部修正し、約2kgで圧痛点を押さえるという方法も考えられるが、前述の長所はなくなってしまう。

私は小児にも90年基準を使用している。その理由は以下の通りである。①90年基準には小児に有効という、科学的根拠はないが、現在報告されて小児用基準にも

科学的根拠がない。②世界標準の小児用診断基準が存在しない。③小児と言っても4歳と10歳と15歳で同じ診断基準を用いるのかという問題も生じる。④小児を診察している施設の7割以上は90年基準を使用している。⑤FMの不全型の慢性広範痛症や慢性局所痛症にFMと同じ治療を行う限り、臨床的にはFMの診断基準はほぼ無価値である。そのため、臨床では90年基準を用いればよいと私は考えている。⑥現時点では、学会発表や論文にする際に90年基準を使用しても問題は生じていない。⑦数多く存在する小児用基準のどれが優れているか、判断できない。

2010年（10年基準）[2]と2011年（11年基準）[3]に新しい診断基準案が報告されたため、小児用の基準はさらに複雑になった。10年基準は様々な症状をインタビューする必要があるが[3]、言葉の問題で小児の診断には適切ではない。11年基準は質問項目が10年基準より少ないため、10年基準よりは小児に使用しやすい。ただし、11年基準は臨床の場でFMを診断する際には使用してはならないことになっている[3]。

本論文の意義を根底から覆すようであるが、FMの診断基準には臨床的な意義はほとんどない。FMの不全型である慢性広範痛症（chronic widespread pain: CWP）や慢性局所痛症（chronic regional pain: CRP）に対してFMと同じ治療を行えば、FM以上の治療成績を得ることができる[4]。つまり、FMであろうがその不完全型のCWPやCRPであろうが治療が同じなのである。治療が同じであればそれを区別する臨床的な意義はほとんどない。では、FMの診断基準の意義は何か。FMの診断基準は学会発表や論文作成の際に意義がある。腰痛症や肩こりからCRPやCWPを経由してFMに進展する。つまり、腰痛症や肩こりからFMまでは連続的な疾患なのである。正常と肥満の関係と同じである。臨床的な意義があおうがなかろうが、BMIで一定の値以上を肥満と定義せざるを得ない。FMも同様である。例えば、圧痛点の数が0の患者をFMとして報告されたのではFMに混乱が起こる。均一の患者をFMと定義しないとFMの臨床症状、疫学、治療方法の有効性の判定などに大混乱が生じてしまう。臨床と学問を区別する必要がある。

90年基準を使用すればFMとCWP/CRPの関係は明瞭である。CWPやCRPの診断基準は一つではないが、90年基準に記載された基準が用いられることが多い。つまり、身体5か所に痛みが3か月以上ある場合が広義のCWPである。狭義のCWPは身体5か所に痛みが3か月以上あるが圧痛点の数が10以下の場合である。通常の肩こりや腰痛症よりも痛みの範囲が広いが、CWPの基準を満たさない場

合がCRPである。ただし、他の疾患で症状を説明できる場合には通常CWPやCRPとは診断されない。しかし、10年基準や11年基準を用いるとCWP/CRPとの関係は混乱する。CWPやCRPという用語を用いず、不完全型FMという用語を用いた方がよいのかもしれない。

結語

2010年に開催された13th World Congress on PainにおいてFMの一般演題を出しており小児を診察している15人中、11人（73.3%）は90年基準を使用しており、4人（26.7%）は小児用の診断基準を特別に作り使用していた。小児の診断には90年基準を使用しても問題はないと私は考えている。

引用論文

- 1) Wolfe F, Smythe HA, Yunus MB, Bennett RM, Bombardier C, Goldenberg DL, Tugwell P, Campbell SM, Abeles M, Clark P, Fam AG, Farber SJ, Fiechtner JJ, Franklin CR, Gatter RA, Hamaty D, Lessard J, Lichtbroun AS, Masi AT, McCain GA, Reynolds WJ, Romano TJ, Russell IJ, Sheon RP: The American College of Rheumatology 1990 Criteria for the Classification of Fibromyalgia. Report of the Multicenter Criteria Committee. Arthritis Rheum. 33: 160-172, 1990.
- 2) Wolfe F, Clauw DJ, Fitzcharles MA, Goldenberg DL, Katz RS, Mease P, Russell AS, Russell IJ, Winfield JB, Yunus MB: The American College of Rheumatology preliminary diagnostic criteria for fibromyalgia and measurement of symptom severity. Arthritis Care Res (Hoboken). 62: 600-610, 2010.
- 3) Wolfe F, Clauw DJ, Fitzcharles MA, Goldenberg DL, Hauser W, Katz RS, Mease P, Russell AS, Russell IJ, Winfield JB: Fibromyalgia Criteria and Severity Scales for Clinical and Epidemiological Studies: A Modification of the ACR Preliminary Diagnostic Criteria for Fibromyalgia. J Rheumatol. 38: 1113-1122, 2011.
- 4) 戸田克広: 線維筋痛症と chronic widespread pain (CWP) ・ 不全型CWPの治療成績の比較. 臨整外. 44: 1203-1207, 2009.

著者紹介

戸田克広（とだかつひろ）

1985年新潟大学医学部医学科卒業。元整形外科医。2001年から2004年までアメリカ国立衛生研究所（National Institutes of Health: NIH）に勤務した際、線維筋痛症に出会う。帰国後、線維筋痛症を中心とした中枢性過敏症候群や原因不明の痛みの治療を専門にしている。2007年から廿日市記念病院リハビリテーション科（自称慢性痛科）勤務。『線維筋痛症がわかる本』（主婦の友社）を2010年に出版。電子書籍『抗不安薬による常用量依存—恐ろしすぎる副作用と医師の無関心、抗不安薬の罠、日本医学の闇—』<http://p.booklog.jp/book/62140>を2012年に出版。ブログにて線維筋痛症を中心とした中枢性過敏症候群や痛みの情報を発信している。実名でツイッターをしている。

ツイッター：@KatsuhikoTodaMD

実名でツイッターをしています。キーワードに「線維筋痛症」と入れればすぐに私のつぶやきが出てきます。痛みや抗不安薬に関する問題であれば遠慮なく質問して下さい。私がわかる範囲でお答えいたします。

電子書籍：抗不安薬による常用量依存—恐ろしすぎる副作用と医師の無関心、精神安定剤の罠、日本医学の闇—<http://p.booklog.jp/book/62140>

日本医学の悪しき習慣である抗不安薬の使用方法に対する内部告発の書籍です。276の引用文献をつけています。2012年の時点では抗不安薬による常用量依存に関して最も詳しい日本語医学書です。医学書ですが、一般の方が理解できる内容になっています。

・戸田克広：「正しい線維筋痛症の知識」の普及を目指して!—まず知ろう診療のポイント—. CareNet 2011

<http://www.carenet.com/conference/qa/autoimmune/mt110927/index.html>

薬の優先順位など、私が行っている線維筋痛症の最新の治療方法を記載しています。

・戸田克広: 線維筋痛症の基本. CareNet 2012

<http://www.carenet.com/special/1208/contribution/index.html>

さらに最新の情報を記載しています。

ブログ：[腰痛、肩こりから慢性広範痛症、線維筋痛症へー中枢性過敏症候群ー戸田克広](http://fibro.exblog.jp/) <http://fibro.exblog.jp/>

線維筋痛症を中心にした中枢性過敏症候群や抗不安薬による常用量依存などに関する最新の英語論文の翻訳や、痛みに関する私の意見を記載しています。

線維筋痛症に関する情報

戸田克広: 線維筋痛症がわかる本. 主婦の友社, 東京, 2010.

医学書ではない一般書ですが、引用文献を400以上つけており、医師が読むに耐える一般書です。

通常の書籍のみならず電子書籍もあります。

電子書籍（アップル版、アンドロイド版、パソコン版）

<http://bukure.shufunotomo.co.jp/digital/?p=10451>

通常の書籍、電子書籍（kindle版）

http://www.amazon.co.jp/%E7%B7%9A%E7%B6%AD%E7%AD%8B%E7%97%9B%E7%97%87%E3%81%8C%E3%82%8F%E3%81%8B%E3%82%8B%E6%9C%AC-ebook/dp/B0095BMLE8/ref=tmm_kin_title_0

電子書籍（XMDF形式）

<http://books.livedoor.com/item/4801844>

小児線維筋痛症患者に対する診断基準の世界における使用状況

2012年12月31日 第1版第1刷発行

2013年1月5日 第1版第7刷発行

<http://p.booklog.jp/book/63313>

著者：戸田克広（とだかつひろ）

発行者：吉田健吾

発行所：株式会社ブックログ

〒150-8512東京都渋谷区桜丘町26-1 セルリアンタワー

<http://booklog.co.jp>

小児線維筋痛症患者に対する診断基準の世界における使用状況

<http://p.booklog.jp/book/63313>

著者：戸田克広

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/katsuhitodamd/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/63313>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/63313>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ